

| | | | | |
|--|----------|--------------------------------|-----------------------------|------|
| 1 | 課題番号 | 研究課題名 | 研究代表者 | 評価結果 |
| | 13851001 | 国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信 | 安永 尚志 (国文学研究資料館・複合領域研究系・教授) | A+ |
| <p>(意見等)</p> <p>研究目的の達成度については期待以上の進展があり、当該学問分野及び関連学問分野への貢献度もきわめて高く、報告された研究成果は多く、また優れていると判断される。研究成果の普及性、波及性については評価が難しいが、国文学資料館の website の最近の目ざましい充実ぶりを見ても十分に評価できるのではないかと判断した。</p> <p>以上のことから、総合的に期待以上の進展があったと判断した。</p> | | | | |
| 2 | 課題番号 | 研究課題名 | 研究代表者 | 評価結果 |
| | 13851003 | 日本・中国の土地利用・土地被覆変化に関する地域間比較研究 | 水見山幸夫 (北海道教育大学・教育学部旭川校・教授) | A+ |
| <p>(意見等)</p> <p>本プロジェクトは国際プロジェクトである国際地理学連合 (IGU) に組織された Land-Use and Land-Cover Change (LUCC) 委員会の推進役を果たすとともに、中国・日本の土地利用変化の実証分析を重ねるなかで、両国の土地利用変化に関する新たな知見とともに、LUCC の計測に関わる方法論を検討し、今後の方向性を提示した点で高く評価できる。なかでも、ローカルスケールの研究とグローバルスケールの研究を連携させるなかで、地球環境問題における人文・社会科学分野からのアプローチの必要性と具体的な方法を明示した点は注目される。そのほか、本プロジェクトの成果を海外の学術雑誌および書籍を通じて世界に向けて多く発信した点は特筆に値する。さらに、中国の研究者と幅広く共同研究を推進するなど、研究組織作りにおいても大きな成果を収めた。</p> <p>本研究の目的を超えた課題であるが、今後、グローバルスケールで LUCC に関するデータベースの構築が図られることを期待したい。</p> | | | | |